

自然農法の学びを現地で!!

普及部技術普及課

昨年も自然農法技術交流会

2013を全国10会場（内1会場は知多草木農場）で開催しました。

10会場すべて晴天に恵まれ、総計415名が参加されました。参加者は知多草木農場をはじめ、農業改良普及センターやJA、有機農業推進協議会などで指導的立場にある方々、流通業者、菜園愛好家、教育者、新規参入志願者など、有機・慣行を問わずに多種多様で、また視察した農家の経歴や経営形態も様々でした。しかし、自然農法を勉強して地域に広めようとする皆さんの想いは共通しているように感じました。本報では開催内容について報告します。

会場となった農家の方々

市原秀一氏、村田正夫氏

（京都市南丹市美山町）

両氏は自然農法を通じて美山町が

活性化されることを願って「美山自然農法の会」を形成されました。

竹村信一氏、竹川和信氏、藤田哲文氏

西田俊一氏

竹村氏、竹川氏、藤田氏は「生き物の生態を残す」こと、「昔の建物や農業を文化として見直す」という

思いから自然農法に取り組み、有機

JAS認定を取得しました。

西田氏はオクラ、ナス、サトイモ

など、土の水分が比較的多い畑で育

つ野菜をみせてくださり、水田に囲

まれた転換圃場で栽培しやすい品目

を選択されているようでした。

両氏とも「消費者と家族に喜ばれ

て次世代に誇りをもって継承できる

農業生産をすること」を目標に取り

組まれ、当日はイキイキとした表情

で参加者に説明をして下さいました。

加田長久氏

（北海道勇払郡厚真町）

「食べるものはきれいな土ときれ

いな栽培で生産したい」という想

で自然農法を志しました。常に土と

向き合って土の状態に併せた有機物

の使い方や耕耘の仕方を心がけてい

る様子が伝わってきました。

高野三喜夫氏、永田正一郎氏

（熊本県菊池市）

両氏のイネはすでに受粉・受精の

時期でしたが、イネ下葉の枯れ上が

りもとくに見られず、止め葉まで元

気な草姿でした。また、水稻栽培の

課題である雑草対策はジャンボタニ

シを活用してほとんど抑草されてい

ました。

千葉康伸氏

（神奈川県愛甲群愛川町）

当地に新規参入した若人です。自

然農法で営農を成功させることを目

標に、「高品質・高効率」の栽培体

系の確立に努めるかたわら、自家採

種にもチャレンジして自身の畑の環

境に適合した自然農法品種の育成に

斉藤正光氏

（茨城県つくばみらい市）

自然農法で営農歴24年の生産者で

す。畑の土は長年自然農法を続けて

きたことからトラクターで耕起せ

ず、かご車輪で表土を砕土・整地す

る程度でも、野菜の根はスムーズに

育つ土壌環境のようです。「自然農

法を続けることで土は作物の生育に

適した状態に変わるモデル」として

参加者の関心が高まりました。

森昭暢氏

（広島県東広島市）

栽培のモットーは「自然の仕組み

と地域資源をできるだけ生かすこ

と」であり、通常は不要となる雑草

や有機性廃棄物（雛の羽毛や醤油か

す）も発酵させて農業利用し、さら

に農地の気候風土にあった品種選

びを心がけていました。

岡田智明氏

（徳島県勝浦町）

当日は堆肥づくりの説明から、

リーフレタス、ミズナの「収穫中の

ハウス」生育途中のハウス」育苗途



中の苗」と栽培の一連を見学し、さらに鮮やかな草姿で肉厚な食感のリーフレタスも試食させていただき参加者は感激していました。

昼食・情報交換会

「旬の地場・自然農法農産物をご賞味いただく」ことを目的に、視察農家から農産物を提供していただき、地元のお弁当屋さん調理してもらいました。

昼食後、「交流会を通して、参加者同士による地域の垣根をこえた交流をもって、自然農法と地域の活性につなげる一助にさせていただき、お願いのもと、参加者に自己紹介と日頃の取り組みや目標、夢、交流会の感想などを1分程度披露していただきました。

おわりに

本交流会を開催するにあたり準備や圃場視察にご協力いただいた農家の方、会場を提供して下さった自治会の皆様、参加者の嗜好を考慮してお弁当を作って下さったお弁当屋さん、そして最後まで熱心に勉強していただいた参加者の皆様、ありがとうございました。（安野 博健）



森氏ほ場入口の看板



角田氏の水田



村田氏の自然農法実証圃場



岡田氏のリーフレタスを見学



ジャンボタニシで草がない永田氏の水田



環境保護に取り組む竹村氏の水田



情報交換会で参加者同士が交流



千葉氏が栽培するジャガイモ



水に強いオクラを栽培する西田氏



地場野菜を使った各会場のお弁当



斉藤氏ほ場で熱心に話を聞く参加者



内海氏のほ場見学の様子